

HTARO TEAM



SANMEI Team TARO PLUSONE TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

JSB1000
11



2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦 第54回 MFJ グランプリ SUPERBIKE RACE in SUZUKA

三重県・鈴鹿サーキット (1周=5.821km)
クラス: JSB1000 マシン: BMW M1000RR タイヤ: BRIDGESTONE
2022年11月5日(土) 天候: 晴れ コース: ドライ
Race 1 予選 15番手 (タイム: 2分09秒055) 決勝: 13位
2022年11月6日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ
Race 2 予選 13番手 (タイム: 2分08秒759) 決勝: 9位
Race 3 予選 15番手 (タイム: 2分08秒192) 決勝: 12位
シリーズランキング: 9位
観客動員数: 9,400人 (2日間合計)



TARO プライベータートップのランキング9位！3年連続全戦ポイント獲得！！

SANMEI Team TARO PLUSONEにとって全日本JSB1000クラス3年目のシーズンが鈴鹿ラウンドでフィナーレを迎えた。今回は、全日本史上初となる3レース制で行われ、すべてにフルポイントがつき、さらにボーナスポイントが3ポイントつく。SANMEI Team TARO PLUSONEとしては、チームランキング10位以内を死守し、トップエントラントになるべく3レースに挑んだ。



20周で争われたレース1。スタートは、まずまず決まりオープニングラップは3つポジションを上げて戻ってくる。3周目に日浦選手に抜かれるが、その後トラブルでピットイン。

前を走るライダーを追っていくが、10周目のスプーンカーブ立ち上がりでシートカウルの止めている部分が破損。一時は、2分14秒台まで下がってしまうが、何とか抑えながら走行を続け2分11秒台から12秒台までタイムを回復。1台にかわされるが、ポイント圏外まで落ちたらピットインすることを決めつつゴールを目指し13位でゴールし、貴重な6ポイントを獲得した。



レース2に向けてはタイヤをメディアムに変更。日曜日朝のウォームアップ走行で確認すると感触もよく7番手につけていた。



12周と、今回一番短い周回数で争われたレース2。マシンのフィーリングもよくなり、オープニングラップを12番手で終わると、2周目には、2分07秒776をマーク。前を走るライダーがトラブルでスロウダウン。これに引っかかっ

てしまい前と離れてしまうが、そこからコンスタントに2分08秒台で周回。生形選手と秋吉選手に追いつきバトルを展開し、レース終盤に入っていく。10周目には生形選手をかわすと、秋吉選手もパスするが、最後に抜き返されてしまう。それでも9位でゴールしシングルフィニッシュを果たした。



そして今シーズン最後の決勝となるレース3は15周で争われた。オープニングラップで13番手に上がると、2分08秒台で周回し、5周目には2分08秒075をマークすると生形選手をかわし12番手に浮上。そのまま単独走行となり、12位でチェッカーフラッグを受けた。

シリーズランキングは9位となりプライベータートップ。チームランキングでは10位とトップエントラント入りを今年も果たした。また、JSB1000クラスで3年連続全戦でポイントを獲得。これは関口が唯一記録している。来シーズンは、さらなる飛躍をすべく、このオフもしっかり準備していく覚悟だ。

■関口太郎コメント

「まずは無事に2022年シーズンを終わられたことを、三明電気工事を始め、スポンサーの皆さん、サプライヤーの皆さん、応援して下さった全ての方に感謝いたします。シリーズランキング9位、チームランキング10位と、すべてのレースをこなせましたし、チームとして初挑戦した鈴鹿8耐も、うまくまわすことができました。開幕戦を迎えるまでは、どうなるかと思いましたが、全戦でポイントを獲得することができましたし、いいシーズンになりました。頑張ってくれたチームスタッフにも感謝したいですね。来シーズンに向けて、もうワンステップして上位を狙いたいという思いもあります。少しでもレベルアップできるように頑張っていきますので引き続き応援よろしくお願いたします」



TARO

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com



事前テストはなく、木曜日の特別スポーツ走行からレースウィークは始まったが、初日は、確認することがあり、メインのマシンセットは金曜日からスタート。電子制御の調整をしながら、足回りのセットを進めていったが、マイナートラブルもあり、一つ一つ問題を解決していく。金曜日の2本目には2分08秒870をマークできていたこともあり、公式予選では、2分07秒前半を狙っていた。



今回の最終戦は、レースウィークを通じて青空が広がり天気に恵まれた。土曜日も快晴となり、まずは公式予選を迎える。タイムアタックに入るが、フィーリングは今ひとつ。午後には、レース1が控えており、もう一つ段階を踏んでおきたいため、予選セッションを使いながらマシンセットを進めたこともあり、ベストタイムは2分08秒192と2分07秒台には届かなかった。